

## 日本鉄鋼協会記事

### 春 季 大 会

本会春季大会は、恒例により4月1日から4日まで東京において開催され、第44回通常総会、第57回講演大会、特別講演会、見学会の諸行事が相次いで行われた。いずれも会員多数の出席があり、盛会裡に幕を閉じた。つぎにその概要を述べる。

**第44回通常総会** 4月2日午後0時半から、東京大学工学部講堂において開催された。まづ武田理事開会を宣し、ついで塩沢会長から挨拶があつた後議事に入り、最初に改選理事、監事および評議員の選挙が行われ、ついで33年度事業報告、収支決算および財産目録の件ならびに34年度事業計画および収支予算の件を一括議に付し、川崎理事より事業についての報告、大原理事より会計についての報告があり、つぎに田畑監事より監査報告があつた後両件とも異議なく承認可決された。続いて長谷川開票委員より理事、監事および評議員の選挙の結果につき報告があり会議は一旦休憩に入つた。(当選者の氏名は4月号会告に掲載につき省略)その間別室において臨時理事会を開き理事の互選によりの場理事が副会長に選任せられた(塩沢会長および石原副会長は任期中につき引続き在任)。よつて会議を再開、的場新副会長より就任の挨拶があり、総会を閉じた。

引続き34年度の表彰式が行われ、塩沢会長より下記受賞者諸氏(敬称略)にそれぞれ表彰状ならびに賞牌、賞金が贈呈され午後1時半式を終つた。本年度は従来の各賞のほかには渡辺義介賞ならびに渡辺義介記念賞が新たに加えられ受賞者も多数に上つた。(推薦理由書〇〇ページに掲載)

服部賞(賞牌および賞金) 滝沢 工

香村賞(同) 田中 勘七

俵賞(同) 佐藤 知雄, 西沢 泰二, 村井 弘佑, 大橋 正昭

渡辺(三郎)賞(同) 原田 芳

渡辺(義介)賞(同) 浅田 長平

渡辺(義介)記念賞(賞金) 内山辰丙, 加藤 健, 河西健一, 実松竹二, 榎淵 隆, 北村外喜男, 太宰三郎, 木村重郎, 鈴木登能弥, 朝熊利彦, 竹入 估, 豊田 茂, 那須重治, 中村政吉, 藤田輝夫, 矢野 巖, 渡辺省三

**第57回講演大会** 4月1日, 2日, 3日の3日間にわたり東京大学工学部において開催された。第1日は午前9時20分より塩沢会長の開会の挨拶があり、引続き4会場においてそれぞれ講演が行われた。講演は第1日44, 第2日20, 第3日45, 合計109を算し、聴講者も400名を超える盛況であつた。

**特別講演会** 4月2日午後1時半から工学部大講堂において開催、服部賞、香村賞、俵賞、渡辺三郎賞、渡辺義介賞を受けられた下記諸氏がそれぞれ有益にして興味深き講演を行つた。

高温高圧用特殊鋼管の製造と品質

住友金属工業鋼管製造所副所長 原田 芳 君

特殊鋼の焼戻過程における炭化物の挙動

東北大学教授 佐藤 知雄 君

日本鋼管川崎製鉄所の合理化について

日本鋼管取締役川崎製鉄所長 滝沢 工 君

鋳鉄管製造技術について

久保田鉄工専務 田中 勘七 君

明治末年のわが鉄鋼業の思い出

神戸製鋼所会長 浅田 長平 君

**懇親会** 4月2日午後6時半から、神田錦町学士会館本館において日本金属学会と共同で懇親会を開催した。恒例により敬老の意を表するため特に長老諸先輩を来賓として迎え、また両会の表彰者を招待し、両会の役員、委員ならびに一般参加者を合せて出席者約180名の多数に上つた。開会の初めに当り、広田金属学会々長、塩沢鉄鋼協会々長のそれぞれ挨拶があり宴に入つたが、今回は座席を設けずパーティー式としたので、各自往来して交歓することができ、その賑いも一層であつた。宴の半ばに浅田長平氏、金子恭輔博士等諸先輩より有益なお話があり、金属学会菊田新会長から挨拶があつた。最後に桂井三博士の発声で両会の万歳を三唱、午後8時半和氣霽々裡に散会した。

当日来賓としてお招きした先輩各位はつぎの通りであつた。(順序不同)

桂井三氏, 金子恭輔氏, 村上武次郎氏, 黒田泰造氏, 石原米太郎氏, 松下長久氏, 蒔田宗次氏(欠),

浅田長平氏, 斎藤三三氏, 青山新一氏, 松縄信太(欠), 真島正市氏, 石原寅次郎氏(欠), 松田孜氏(欠),

小林子之輔氏(欠), 藤田俊三氏, 玉置正一氏。

**見学会** 4月4日日本金属学会と共同で見学会を行つた。両会の参加者550名が9班に分れて金属材料技術研究所ほか各研究所、工場等18カ所の見学を行つた。本年は会員の希望もあり特に見学先および定員の増加をはかつたが、希望者多数で班によつては抽籤により決定せざるを得ない状況であつた。(詳細は6月号掲載の見学記参照)

**展示会** 日本金属学会との共催により、3日間にわたり商品展示会が工学部第1号会館において開催され

た。旭硝子株式会社ほか 47 社の出品にかかる各種機械、計器、新製品が多数展示、紹介され参観者が続々と入場し賑いを呈した。

**支部長会議** 日時：4月3日(金)午後5:30、場所：協会々議室。出席者：塩沢会長、石原副会長、三本木東北支部理事、養田北陸支部理事、佐野東海支部理事、菅野関西支部理事、小柴、敦納中国四国支部各理事、堀田九州支部理事ほか理事、監事、前会長、常務委員、事務局長出席

議題：Ⅰ. 本部よりの報告。特に特別資金による事業計画について。Ⅱ. 各支部の事業運営状況報告。Ⅲ. 本部支部間の連絡について。Ⅳ. 本会の事業運営その他本会発展に関する意見。

**第2回理事会** 日時：4月14日(火)午後5:30。場所：八幡製鉄山谷寮。出席者：塩沢会長ほか20名  
報告事項：Ⅰ. 名誉会員川上義弘氏ほか会員逝去の件。Ⅱ. 編集委員会の件。Ⅲ. アブストラクト第7号完成の件。Ⅳ. 秋季大会実行委員長委嘱の件。Ⅴ. 日本工学会役員選挙の件。

協議事項：Ⅰ. 理事の職務分掌の件—新任理事の職務分掌をつぎの通り決定した。(庶務)芝崎理事、(会計)遠藤理事、桑田理事、(編集)作井理事、相山理事、(企画)伊木理事、入理事。Ⅱ. 常務委員解嘱ならびに追加委嘱の件—森永委員転勤のため委嘱を解き、佐藤忠雄君(編集)、松本豊君(企画)、松下幸雄君(編集)、前田元三君(企画)を新たに委嘱することに決定。Ⅲ. Hammarlund 博士講演会開催の件—スウェーデンASA社の同博士の誘導攪拌装置についての学術講演会を協会主催で開催することに決定。Ⅳ. 定例理事会および委員会開催日の件—会議の定例開催日を毎月原則としてつぎの通りとすることに決定。理事会—第2火曜企画委員会—第3火曜、編集委員会—第4火曜。Ⅴ. 3月中収支決算の件—承認。Ⅵ. 3月中入退会その他会員異動の件—承認。

**第2回編集委員会** 日時：4月21日(火)午後4:30。場所：協会々議室。出席者：作井理事ほか12名。  
報告事項：Ⅰ. 4月号および5月号会誌完成の件。Ⅱ. 依頼論文に関する件。

協議事項：Ⅰ. 6月号会誌原稿選定の件。Ⅱ. 秋季講演大会前刷原稿募集に関する件—前年通りとする。Ⅲ. 寄稿規程改正に関する件—一部改正を決定(本号会告参照)。Ⅳ. 会誌交換に関する件—BISRA および産業用水調査会と換のこと。Ⅴ. アブストラクト第9号図面取扱に関する件—図面掲載見合せのこと。

**第1回企画委員会** 日時：4月28日(火)午後4:30。場所：協会々議室。出席者：伊木理事ほか10名。

報告事項：Ⅰ. 鉄鋼技術講座および鉄鋼便覧編集の件。Ⅱ. Hammarlund 博士講演会開催に関する件。Ⅲ. 特別資金による新事業に関する件。

協議事項：Ⅰ. 依博士記念事業実施に関する件—記念事業は「思い出」出版のほか、会館の設置、教育施設の創設、研究グループの編成とすること、および記念事業委員会を設けてこれが実施に当ることを決定。Ⅱ. 最近に実施すべき事業について—懸案とし次回審議のこと。

**東北支部研究発表会** 4月2日、日本金属学会と共催により盛岡市上田岩手大学工学部において東北支部研究発表講演会を開催した。当日の講演つぎの通り、

#### 開会の辞

特別講演 新らしいステンレス鋼について

1 砂鉄と和賀仙人鉱(雲母状赤鉛鉱)のペレタイジング  
およびその製錬に関する研究

2 釜石特粉鉱単味による焼結について

3 熔鉄中の酸素について

4 鉄鉄試料熔製について

5 超音波探傷法の2,3の基礎的研究

6 光弾性実験による軌条のボルト孔周辺の応力分布

7 砂鉄の脱磷について

8 マンガン鉱の処理に関する一実験

9 吸光光度法による微量セレンの定量について

10 Mg-Zn合金の時効性に対するSb, Biの影響

| 支部長       | 的場 幸雄  |
|-----------|--------|
| 東北大学教授    | 佐藤 知雄  |
|           | 大島喜一郎  |
|           | 中村農夫也  |
| 東北電気製鉄    | ○福津 勉  |
|           | 伊藤 専治  |
| 岩手木炭製鉄    | ○青木 希仁 |
|           | 河原 洋生  |
| 同 上       | 藤田 俊三  |
|           | 伊藤 専治  |
| 同 上       | ○川原 兼三 |
|           | ○川原 兼三 |
|           | 吉田 良穂  |
|           | 間垣 登   |
| 富士鉄釜石製鉄所  | 室 守敏   |
|           | ○桑田 恒雄 |
|           | 岩崎 勲   |
| 同 上       | ○最上 純一 |
|           | 佐々木 真雄 |
|           | 小野 永雄  |
|           | 斎藤 博   |
| 日本高周波八戸工場 | ○加藤政治郎 |
|           | 斎藤 実雄  |
|           | 宇垣 武雄  |
| 岩手大学金属工学科 | ○坂入 専司 |
|           | 吉田 芳男  |
| 同 上       | 斎藤 実   |
| 同 上       | 石河 三郎  |

11 Cr-Mn 鋼の組織図について

同 上

三神 梯次  
○藤田 正義  
○皿田 実  
小貫 邦雄  
小林 信孝12 砂鉄鉄の配合率を変えた (QD<sub>3</sub>) の熔製について

三菱鋼材広田製鋼所

## 日本鉄鋼協会第 43 回通常総会における表彰者推薦理由書

## 服部賞受領者

日本鋼管株式会社取締役川崎製鉄所長  
工学士 滝 沢 工 君  
製鉄事業の合理化

君は大正 15 年京都帝国大学工学部冶金学科卒業、ただちに日本鋼管株式会社に入社、爾来終戦時まで同社川崎製鉄所において製鋼作業に従事し、終戦後は富山電気製鉄所、ついで川崎製鉄所の最高責任者として設備ならびに生産の合理化に献身的努力をさへげた。

すなわち、

1. 入社以来終戦時まで 20 年間川崎製鉄所の製鋼作業に従事し、鋼管用鋼塊製造技術を確立したほか、戦時は平炉、転炉もしくは電気炉による合併製鋼法を実施するなど種々注目すべき功績を挙げた。

2. 戦後富山電気製鉄所長として、数次にわたる同所の合金鉄製造の合理化を推進し、設備の近代化と操業法の確立につとめ、生産能力の増大、製品品質の向上、原単位の切下げ、さらに超低炭素、フェロクロムおよび高窒素低炭素フェロクロムの製造法を確立し、その技術を世界的水準にまで高めた。

3. 昭和 29 年以降は、同社川崎製鉄所長として帯鋼工場、連続鍛接管工場、新平炉工場、純酸素転炉工場、ならびに中径管工場などの新設設備を稼働せしめ、合理化計画の完遂に努力した。

4. 総合的品質管理について積極的に普及徹底を計り、昨年同社デミング賞実施賞受賞に際しての原動力となった。

5. 安全運動についても、災害の防止に努力を続け、その結果昭和 33 年 1 月川崎製鉄所は無災害記録証 100 回達成による労働大臣表彰を受けた。

以上のごとくわが国製鉄事業の合理化に寄与した功績はまことに顕著であつて、日本鉄鋼協会表彰規程第 3 条の規定により服部賞を受ける資格十分なるものと認める。

## 香村賞受領者

久保田鉄工株式会社  
専務取締役 田 中 勘 七 君  
鑄鉄管および鑄鋼管の製造方法の確立

君は大正 3 年明治工業専門学校を卒業、同 6 年久保田鉄工所に入社し、爾来、鑄物の製造、なかんずく鑄鉄管および鑄鋼管の製造法の確立とその製造設備の建設に尽力し、もつて良品質、低原価の鑄鉄管ならびに鑄鋼管の製造に大いなる進歩をもたらした。その功績のうち、主なるものを挙げるとつぎのごとくである。

1. 鑄鉄管の材質の改善—昭和 2 年鑄造業研究のため

欧米におもむき翌年帰朝後、高級鑄鉄の材質を鑄鉄管製造に利用することにより、その強度と靱性の増大とにより管厚を減少したがつて重量を軽減し、価格を低減することを企画し、鋭意研究の結果ついにその目的を達成した。

2. 遠心力鑄鉄管の製造—品質の向上と原価低減のため鑄鉄管の製造に遠心力方法を応用することを立案し、幾多の技術的困難を克服して製造に成功した。

3. ダクタイル鑄鉄管の製造—ダクタイル鑄鉄を鑄鉄管に採用することを企画し、昭和 24 年米国インターナショナルニッケル社と技術提携して、ダクタイル鑄鉄の製造権を獲得して研究を重ね、また昭和 30 年に堅吹法により、32 年には遠心力法により生産を開始するにいたつた。

4. 遠心力鑄鋼管の製造—遠心力鑄造法による鑄鉄管の技術の経験を基にして鑄鋼管の遠心力鑄造に成功し、幾多の新規需要面を開拓した。

5. この間同君の関与せる発明は特許 23 件、実用新案 39 件の多きにおよんでいる。

以上のごとく鑄鉄管の材質の改善、ならびに鑄鉄管、鑄鋼管の遠心力製造法の確立とその工業化についての君の功績はまことに顕著であつて、表彰規程第 4 条の規定により香村賞を受ける資格十分なるものと認める。

## 俵賞受領者

東北大学教授 工学博士 佐藤 知 雄 君  
東北大学工学部 工学士 西 沢 泰 二 君  
東北大学工学部 工学士 村 井 弘 佑 君  
トヨタ自動車工業株式会社  
工学士 大 橋 正 昭 君

## 実用特殊鋼の炭化物の電解分離による研究 (論文)

会誌「鉄と鋼」昭和 33 年 2 月、3 月、5 月、9 月および 12 月の各号に掲載された佐藤知雄君ほか 3 君の共同研究「実用特殊鋼の炭化物の電解分離による研究」と題する一連の論文は同年中「鉄と鋼」に掲載された論文でもつとも有益なるものと審定した。

よつてその寄稿者である 4 君は、表彰規程第 5 条の規定により俵賞を受ける資格十分なるものと認める。

## 渡辺 (三郎) 賞受領者

住友金属工業株式会社鋼管製造所副所長  
工学士 原 田 芳 君

## 高温高压ボイラー用鋼管の生産化

君は昭和 11 年九州大学工学部機械工学科卒業、ただちに住友金属工業株式会社に入社、爾来鋼管製造所にお